

第13回群馬地域リハビリテーション研究会のお知らせ

第13回群馬地域リハビリテーション研究会を下記の予定で開催します。詳細は群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページか、関連団体事務局宛のチラシでご確認下さい。事前申し込み受付は平成26年12月17日(水)から開始します。

今回は会場が、昨年までと変更になりましたので、お間違えの無いようご来場ください。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

【日 時】平成27年1月24日(土) 13:30 ~ 17:30(受付 13:00)

【場 所】前橋市総合福祉会館 多目的ホール(例年の群馬会館ではありません)

【報 告】13:40 ~ 14:00 群馬県の地域リハ関連情報

【講演 I】14:00 ~ 15:30

「高齢者施策とこれからの地域リハビリテーションの在り方」

講師:厚生労働省 老健局老人保健課 村井千賀 先生

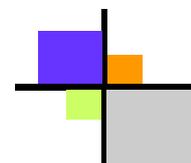
平成27年度の介護保険制度改正を踏まえ、厚生労働省の高齢者施策について解説していただきます。また、地域におけるリハビリテーションの今後の課題を具体的に挙げ、リハビリテーション専門職種に求められる社会的役割、リハビリテーションの在り方についてご提言をいただきます。

【講演 II】15:50 ~ 17:20

「地域包括ケアシステムの現状と今後の課題」

講師:高齢者総合ケアセンターこぶし園 小山剛 先生

厚生労働省の地域包括ケアシステムの先駆的取組モデルとして、高齢者総合ケアセンターこぶし園では幅広い介護サービスを展開しています。その実践内容を詳しく紹介していただきます。また、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの今後の課題についてご提言いただきます。



リハビリテーション・ケア合同研究大会 長崎 2014

都道府県リハビリテーション支援センター会議参加報告

群馬大学大学院保健学研究科 勝山しおり



平成 26 年 11 月 6 日(木)～8 日(土)の 3 日にわたり、長崎ブリックホールにて長崎リハビリテーション病院院長の栗原正紀先生を大会長として「リハビリテーション・ケア合同研究大会 がんばらんば～安心して暮らせる地域づくりに向けて～」が開催されました。

この合同研究大会は、日本リハビリテーション病院・施設協会、回復期リハビリテーション病棟協会、全国デイ・ケア協会、日本訪問リハビリテーション病院・施設協会、回復期リハビリテーション研究会、全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会の 6 団体が主催し、医師、看護師、リハビリテーシ

ョン・ケア職種、社会福祉士、ケアマネジャーなど多職種が参加する全国大会です。特別講演やシンポジウムの他、研究発表は口演 700 題、ポスター発表 250 題で、約 2200 名が参加する大規模なものでした。今回は特に、地域包括ケアに関する講演や実践報告が多くありました。体一つでは足りず、泣く泣く聴講をあきらめたものも多数ありました。

都道府県リハビリテーション支援センター会議は全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会主催で大会 2 日目の夜に開催されました。平成 25 年度都道府県リハ支援センター会議と地域包括ケア構築に向けた活動事例として厚生労働省がまとめたモデル事業の内容が報告されました。また、平成 27 年度事業として、合同研修会(平成 27 年 7 月 19～20 日、つくば国際会議場)とブロック研修会(日時未定、京都にて開催)の報告がありました。その他、各県におけるリハビリテーション支援センターの取組として、長崎県や広島県の災害リハビリテーションにおける支援体制の整備について報告とディスカッションが行われました。

詳しくは協議会のホームページをご覧ください。(http://rehasien.com/index.html)

県支援センター事務局便り (H26. 4～H26. 11)

- 4. 9 ニュースレター 22 号発送
- 6.20 支援センター受託団体である群馬リハネットの第 1 回理事会にて、平成 26 年度事業計画報告
- 7.29 県介護高齢課より事業予算を受入
- 11. 6～8 平成 26 年度全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会、都道府県リハ支援センター会議・リハビリテーションケア合同研究大会出席
- 11.18 第 13 回群馬地域リハ研究会部会
- 11.28 ニュースレター 23 号発行

認知症サミット日本後継イベント～新しいケアと予防のモデル～

群馬県地域リハビリテーション支援センター 山口晴保

平成26年11月5日(水)・6日(木)、アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ)で認知症サミット日本後継イベントが開催されました。世界的な課題である認知症に各国が協力して取り組むため、2013年12月にロンドンで「G8 認知症サミット」が開催されたことを受け、今年度は、4つのテーマについて後継イベントが各国で開催されることとなり、その後継イベントの一つが、「ケアと予防」をテーマにして日本で開催されたわけです。

このイベントには、世界10か国以上から300人以上の参加があり、「新しいケアと予防のモデル」をテーマに活発な議論が交わされました。また、国内外から多くのメディアが集まり、新聞やテレビでその模様が報道されました。

1日目は、塩崎厚生労働大臣や三浦老健局長などの挨拶に続いて、4つの専門分科会が催されました。筆者の山口は、第1分科会「認知症の予防とケア:適宜・適切な支援」で、日本の取り組みとして、前橋市で昨年モデル事業を実施している「認知症初期集中支援チーム」について講演しました。このほか、英語が堪能な大河内二郎先生が老健施設の「認知症短期集中リハビリテーション」と「介護予防サロン」について、池田学先生が「熊本県の認知症疾患医療センターの活動」について紹介しました。その後、カナダ、フランス、米国の取り組みが紹介されました。

続く第3分科会「地域の中で認知症とともにうまく暮らす」では、各国の取り組みに混じって、栗田主一医師が「町カフェ」などについて、認知症の人と家族の会の高見代表が「集い」について、砂川市の内海久美子医師が「受診支援などの地域ボランティアグループ」について、大牟田市の大谷ルミ子氏が「認知症コーディネーター」や「徘徊模擬訓練」についてなど、多くの実践が紹介されました。エビデンス(研究)を中心とした第2・4分科会は別会場で平行して行われたために聞けませんでした。

2日目朝の開会式では、サプライズで安倍内閣総理大臣から挨拶があり、我が国の認知症施策を加速するための新たな戦略の策定について、「省庁をあげて取り組む」と話されました。これまでの認知症施策は、オレンジプラン(2013-2017)として厚労省の施策でしたが、今後は国策として国を挙げて認知症に取り組むということになります。そして閉会式で、3つの基本的な考え方が塩崎大臣から示されました。①団塊の世代が75歳を迎える2025年を目指して認知症地域包括ケアシステムを実現、②認知症高齢者にやさしい地域づくり、③認知症の本人や家族の視点に立って施策を実施、です。さらに日本の認知症サポーター養成の取り組みが世界に広がっていくことを支援すると述べました。英国では dementia friendとして広まっています。

厚労省の認知症施策が、各国同様に“国策”となった2日間でした。認知症初期集中支援チームは、その要の施策です。しかし、全市町村で実施すると、訪問スタッフが足りません。訪問で認知症を診られる保健師や作業療法士などが必要です。日本作業療法士協会がスタッフ養成に熱心ですので、期待しています。今後、各リハ職の県士会でも対応を検討していただきたいと思います。



介護予防サポーター学びなおしニーズ調査の結果報告

群馬大学大学院保健学研究科リハビリテーション学講座 亀ヶ谷忠彦

介護予防サポーター学びなおし研修(学びなおし研修)の開催へ向けて準備が進められています。学びなおし研修とは、介護予防サポーターの方々が介護予防活動に必要な知識や技術を学びなおすことによってサポーター活動をさらに充実させていただくための研修です。

サポーターの方々の希望や意見を反映した研修教材やプログラムを開発するために、全県の上級介護予防サポーターを対象とするアンケート調査が行なわれました。調査にご協力いただいた上級サポーター473名のうち、学びなおし研修が必要と回答された方は217名(46%)でした。サポーターの方々が調査票に記入された研修に対する希望や意見を分析したところ、これから研修を企画していく上で参考となる以下の情報が得られました。

- ① サポーターの方々は、日ごろ取り組んでいる筋トレ教室やサロンなどの活動をより楽しく魅力的な内容にして、地域に住む多くの人たちに参加してほしいと考えている。
- ② 研修に参加して知識や技術を学ぶことは、サポーター活動を充実させると同時に活動に対する自信を高めることにつながると意識されている。
- ③ 研修では介護予防に関係する新たな知識や最新の情報を学ぶことが望まれている。同時に初級・中級サポーター研修で学んだ内容を復習することも必要と考えられている。
- ④ 研修で学ぶ知識や技術としては、効果的な筋トレの方法、多くの参加者が楽しめるレクリエーションのプログラム、活動中のケガや事故の予防と対処法といった、日ごろのサポーター活動に役立つ実践的な内容が求められている。
- ⑤ サポーター同士で情報交換をする機会が求められている。他の地域で活動しているサポーターの取り組みを参考にしたり、自分たちの取り組みを他の地域のサポーターへ向けて発信することが希望されている。

今回の調査結果と今年3月に開かれた学びなおし研修(試行版)の成果をもとに、学びなおし研修の教材とプログラムの準備が進められています。

介護予防サポーター学びなおし研修は本年度から開講します。より多くのサポーターの方々に研修へご参加いただき、日ごろの活動を充実させていただければ幸いです。

「華麗に加齢のサイエンス 2015(仮題)」開催のお知らせ

群馬県地域リハビリテーション支援センター 事務局長 浅川康吉

2013年、2014年と群馬県、群馬大学大学院保健学研究科と共催で取り組んできた「華麗に加齢のサイエンス」を2015年も下記の通り開催する運びとなりました。

日時:平成27年3月5日(木)13:00~16:00

場所:未定(この原稿を作成している時点では群馬会館での開催を検討しています)

「華麗に加齢のサイエンス 2013」「華麗に加齢のサイエンス 2014」は県支援センターのなかでは県民向け健康づくり推進イベントとして位置づけられています。2013では県支援センター長であり、群馬大学教授でもある山崎先生と医療法人あづま会 大井戸診療所理事長の大澤先生よりご講演をいただくとともに、前橋市や中之条町から先駆的地域保健事業の報告をいただきました。群馬大学大学院保健学研究科の先生方による測定体験ブースも設けられ多くの方々にご来場いただきました。今年度も皆様のご期待に応えられるように準備を進めたいと思います。皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



群馬リハビリテーションネットワーク

ニュースレター 16号

2014. 11. 28

平成 26 年度第 1 回群馬リハネット理事会

平成26年6月20日(金) 19時から、群馬大学大学院保健学研究科西棟 4 階 大会議室において、開催された。県からは、健康福祉部介護高齢課認知症対策尾池主監と、黒澤主幹が出席された。議事に先立ち、新任理事(小池昭雅理事)の挨拶があった。

はじめに、(1)平成25年度県支援センター事業報告・精算書について、山崎県支援センター長より、①介護予防サポーター育成・活用事例 2013 年度版、②介護予防サポーターの「学び直し」教材・研修会、③平成 26 年 3 月 20 日に群馬県庁で開催された「広域支援センター連絡協議会」、④ニュースレター21号、22号、⑤平成 26 年 1 月 25 日に群馬会館で開催された「第 12 回群馬地域リハ研究会」、⑥平成 26 年 3 月 6 日に群馬会館で開催された「華麗に加齢のサイエンス 2014」、⑦県支援センターパンフレット改定版、について報告があり承認された。

次に、(2)平成25年度事業報告・決算報告が、浅川事務局長よりあり、承認された。

さらに、(3)平成25年度監査報告が、田中会計監査担当理事より、事業執行及び決算ともに適正であったことが報告され、承認された。

長坂理事より、ニュースレターの配布先と、発行部数の根拠について質疑があった。浅川事務局長より、群馬リハネット加入団体と、各広域支援センターへ配布、各団体への配布部数を積算すると 4100 部となると回答があった。山口副理事より、配布部数の多い少ないというようなリクエストがあれば調整するので連絡をいただきたいとの意見があった。

竹内理事より、高齢者の暮らしを拓げる 10 の筋力トレーニングビデオの価格と販売窓口について質疑があった。浅川事務局長より、DVD1 枚千円で 1 部パンフレットを付けて販売している。販売に関しての会計は販売実績に応じて、増刷をしているので、群馬リハネットの会計とは別枠となっている。窓口は、群馬リハネット事務局となっているので、購入希望の場合は連絡をいただきたいと回答があった。山口副理事長より、DVD とパンフレットを参考までに本日配布すると発言があり、事務局より参加者に配布した。

浅川事務局長より、ニュースレターについて、先日、理学療法士協会から、配布部数を増やすよう要望があったことが報告され、他の団体の方も配布部数変更の希望があれば連絡をいただきたいとのお願いがあった。

次に、(4)平成26年度県支援センター事業計画・見積書について、山崎県支援センター長より説明があった。補足説明で、上級介護予防サポーター研修については、各広域支援センターに研修をお願いすると負担が多くなってしまうため、県支援センターが研修を主催する形を考えていること、及び、効率的に介護予防サポーター交流大会と上級介護予防サポーター研修を同日に開催する可能性があることについて説明があった。

丹下理事より、ニュースレターの 2 回目の発行が 3 月のため、各関係団体へ配布する予算がなく、配布時期が遅くなってしまうため発行時期を早められないかとの意見があった。浅川事務局長より、もう少し早く発行できるように、検討すると回答があった。田中理事より、各地域や団体の活動をニュースレターの記事にさせていただきたいとの意見があった。浅川事務局長より、取材記事の掲載について検討すると回答があった。(4)について承認された。

次に、(5)平成26年度事業案計画・予算案について、浅川事務局長より、説明があった。補足として、田中理事の意見を踏まえて、ニュースレターの発行時期や、記事について検討致しますとの説明があった。

山口副理事長より、事業計画で 1 月の理事会は、情報交換ができるような交流会形式にできればと考えている。県と相談して対応していきたいとの説明があった。

飯島理事より、厚生労働省よりデータをもらい、群馬県の高齢対策基礎資料を作成しているが、日本における日本人以外のデータが入っており、群馬県作成の「保健福祉統計年報」と数値が一致しなくなるため、現在、日本における日本人のデータのみへの修正を依頼している。分析結果の報告が当初の予定より遅れるとの説明があった。(5)について承認された。以上を持って議事を終了した。

「介護予防サポーター交流大会」&「上級サポーター学び直し研修会」 開催のお知らせ

群馬県地域リハビリテーション支援センター 事務局長 浅川康吉

群馬県地域リハビリテーション支援センターは「介護予防サポーター交流大会」と「介護予防サポーター活動事例集」を交互に開催しています。2015年は「介護予防サポーター交流大会」の年にあたりますので、下記日程にて開催すべく準備を進めております。場所は未定ですが、前々回はイオンモール高崎、前はスマーク伊勢崎で開催し好評を博しましたので、今回も大型ショッピングモール内のホールでの開催を検討しています。

日時：平成 27 年 2 月 22 日(日)11:00～16:00

場所：未定(大型ショッピングモール内のホール利用を検討中)

今回も出展団体を募集しております。出展団体構成メンバーは市町村職員、広域支援センター関係者、サポーターのいずれかが主となっていればどのような構成でも構いません。詳しくは下記までお問い合わせください。皆様方のお申し込みをお待ちしております。

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

メールアドレス tsunoday@gunma-u.ac.jp

(お申し込み・お問い合わせには、できるだけメールをご利用下さい。)

電話・FAX 027-220-8966

なお、当日は、隣接会場にて上級介護予防サポーター向けの「学び直し研修会」も行う予定です。「学び直し研修会」の経過はこれまでのニュースレターに掲載の通りです。詳細が固まり次第、市町村および関係団体にご案内させていただきますので、受講者(上級サポーター)への周知につきましてご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

群馬リハネット事務局便り (H26.4～H26.11)

平成 26 年 11 月現在会員等の状況

- * 加入団体 33 団体
- * 賛助会員 団体会員 2 団体
(株)孫の手・ぐんま(旧ハッピーラブハッピー)と、
榛名荘病院より賛助会費をいただいております。
- * 個人会員 1名

6.15 ぐんま認知症アカデミー
第 9 回春の研修会(後援)

6.20 平成 26 年度第 1 回理事会

10.31 平成 26 年度年会費納入依頼通知発送

11.28 ニュースレター 16 号発行

編集デスク

山口晴保

浅川康吉

角田祐子

発行

群馬リハネット

群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬リハネット事務局

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学大学院保健学研究科内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@gunma-u.ac.jp